第３回基山町総合計画審議会

日　　時：平成 26 年 7 月 14 日（月）13:30～
場　　所：基山町役場　４階大会議室
出席委員：16 名
　　森田昌嗣会長、林真実副会長
　　田口英信、原憲一、永家重光、平田百合子、鶴岡健治、中村敏昭、
　　神原玄應、原利廣、芳野勇一郎、天野龍、江渕勉、内山順子、篠原夏子、
　　和栗百恵
事 務 局：3 名　企画政策課　木村課長、寺﨑係長、久保山
傍 聴 者：6 名

１　開会
２　町長あいさつ
３　議事録の署名人選出
４　議事
（１）人口に係る資料の説明について
（２）基本構想（原案）の審議について
（３）その他
　　①　次回審議会の開催時期について

1　開会

事 務 局：落合委員さんは、全国知事会のほうが、唐津市のほうであっているということで、政策監グループ自体もそちらのほうに出席をされており、代理出席も出きないという報告がきておりますので、本日は欠席という連絡を受けています。中島委員さんについては、急きょ、名古屋のほうに出かける所用ができたということで、欠席の連絡を頂いております。原憲一委員さんにつきましては、今、急いでこちらのほうに向かわれているということで、少々、遅れるというような報告があっております。以上、委員さんの欠席関係について、ご報告させていただきます。

では、３回目の総合計画審議会の開始をお願いいたします。会長さんのほうに、マイクを渡したいと思います。よろしくお願いします。

森田会長：皆さん、こんにちは。今日は３回目、本審議は構想の案についてできるだけ取りまとめ、これをまとめることで、次の計画に向けて検討に入っていけることとなります。今日は構想の内容につきまして、忌憚のないご意見を頂いて、いい方向に持っていければと思いますので、ご協力のほう、よろしくお願いいたします。

それでは、町長が来られていますので、ごあいさつお願いします。

2　町長あいさつ

町　　長：それでは、皆さん、こんにちは。皆さん方は、それぞれお忙しい方ばかりでございますけれども、今日、こうしてご出席を頂きまして、本当にありがとうございます。今日で３回目ということで、これまでの２回、皆さんからいろいろと熱心に意見交換、議論をいただきましたこと、お礼を申し上げさせていただきます。

議事録等も、私、見せていただいておりまして、今更、私がいろいろ申し上げる必要もないし、むしろ申し上げるべきではないと思っております。しかし、こうして今日、まいりましたものですから、一つだけお願いをしたいのは、これは当然のことでございますけれども、やはりこれから先の総合計画、基山町の将来、どうあるべきなのか。そして、経済も今の時代は、右肩上がりばかりではなく、人口減少問題、これは今、消滅危機というような物騒な言葉も言われている、そういう時代、将来ということでございます。

そうした中で、本当に基山町がどうやっていくのかということであります。基山町はいろいろな恵まれた面がたくさんございまして、自然もいっぱいございます。それなりのことも、バス、住民サービスなども何とかやってきたということでございます。したがいまして、土地が狭いとか、財政がもう少しとかいうようなことをいうのではなくて、これらを、もっと、もっと活か

して、伸ばして、いいまちづくりをということを、ぜひ、皆様方にまとめていただきたいと思っております。

私がいろいろなことを言うよりも、やはり、まず今、住んでいる住民の皆さんが幸せになるというか、いい街だと思われるようなことを積み上げていけば、それなりのまちづくり、将来が見えてくるというような思いでございましたけれども、本当に消滅危機とか何とかと言われますと、悠長なことは言ってはいられないのかなというような反面、そういう気持ちもございます。

そういうことでございますから、ひとつ皆さま方に、今日、あるいは次に向けて、基山町らしい特色のある総合計画をまとめていただけたらと思っております。どうぞ、よろしくお願いを申し上げていただきます。

森田会長：どうも、町長ありがとうございます。ここで第１、２回審議会を欠席となっておりました和栗委員に、今日、ご出席いただきましたので自己紹介をお願いしたいと思います。

和栗委員：皆さん、こんにちは。福岡女子大学におります、和栗百恵と申します。第１、２回どうしても来れずに、今回、最後の回でようやく来ることができました。私は、もともと九州の人間ではなくて、東京の町田の出身で、５年前に福岡女子大の改革に合わせて福岡にやって来ました。この５年間、外者ならではの視点を持って、九州、福岡とお付き合いすることができたと思っています。このご縁を大切にさせていただいて、少しでも何かしらお役に立てればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

３　議事録の署名人選出

森田会長：どうもありがとうございます。議事に入ります前に、議事録の署名人の選出を行いたいと思います。議事録の署名につきましては、基山町の総合計画審議会条例により、この審議会の議事録を作成することになっております。その議事録の署名については、会長及び委員の中から２名が署名することになっております。本日、第３回の署名人の選出を行いたいと思います。

私、会長とあと２名ということですので、選出ということでございますので、私のほうからご指名させていただいてもよろしいでしょうか。

委　　員：異議なし。

森田会長：それでは、１名は副会長の林さん、お願いいたします。それから、もう１名は、商工会会長の田口さんにお願いしたいと思います。よろしいでしょ

うか。

委　　員：異議なし。

森田会長：それでは、よろしくお願いいたします。
　では、議事に入ります。レジュメに従って進めていきます。
　最初に、（１）人口に係る資料の説明についてです。前回、第２回目のときに、人口の推移等につきまして、もう少し細かな資料等を提示してほしいというご意見も多数ございましたので、今回、事務局のほうで用意していただいています。それでは、よろしくお願いいたします。

４　議事

（１）人口に係る資料の説明について

事務局より、資料１・資料２・資料３について説明。

森田会長：一番大きな進行にかかわる資料を提出していただきました。前回に引き続きこのご報告につきまして、ご質問等ありましたらお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

原(憲)委員：すみません、遅れてきましたけれども、対策で、人口の推移の中で、平成13年度ぐらいからソフト事業を中心にやってきたということで、私の子どもの時代にはそういうことはなかったのですけれども、孫が同居しているときは、保育料とか医療費で大変助けられた記憶がございます。その周知が不足していた部分で、人口の流出、あるいは基山町はあえて住みたいところに選んでくる方が出てこなかったというような言い方をされたと思います。よその地域、近隣では、保育料とか医療費とか下がる状態の中で、基山町は一番に取り上げて、基山町独自だったのだよとかいう形の部分も、その当時あったのかなと思います。この部分はあえて、佐賀県あるいは近隣の福岡と比べても、基山は特段よかったという施策だったのですかね。そこの比較ができないので。

事 務 局：先ほどの説明の中で、ソフト事業のほうが、第４次、平成18年以降のところで申し上げました保育料の改定だったり、医療費の中学生への拡大というところもご説明を申し上げました。保育料の改定につきましては、平成23年に細分化ということで、階層が国基準でいっていたものを、１つの区切りを３つに分けて、１つの層の差をなるべく少なくしていくという改定を行っています。
　また、子どもの医療費につきましても、平成21年に医療費制度枠を変えて、平成23年に中学生まで拡大をしているところです。この当時は、中学

生までに拡大したのは県内では最も早かったのですけれども、やはりどこでも競争みたいな形で、ほかの自治体さんも中学生まで拡大していったり、あるいは医療費を無料にするという自治体さんも出てきました。今となってはそんなものかという状況にはありますが、この改正とかをかけた当時は、周辺ではよかったというか、進めていったところだったのです。ただそれが、町民さんにしても町外の皆様にしても、周知等があまり諮れていなかったというのが原因というところで、ご説明をさせていただいたところです。

江渕委員：確認ですけれども、資料１の左側の下のほうに※印で、人口は住民基本台帳人口ですよと、その下の下に、婚姻件数は佐賀県統計年鑑ですよと書いてあります。この住民基本台帳の値と、佐賀県の統計年鑑の値というのは同じなのでしょうか。それとも違っているのでしょうか。それをまずお聞きしたいです。

事 務 局：住民基本台帳人口というのは、それこそ、この言葉どおり台帳人口です。佐賀県のほうの佐賀県統計年鑑、あるいはこの上に書いております佐賀県人口移動報告書とありますが、こちらについては、平成22年、平成17年、平成12年といったこの５年スパンで国勢調査がありますけれども、例えば平成22年の国勢調査が終わったあとに、平成23年というのは平成22年の国勢調査の人口をベースに差し引きをしていくというものになります。ですので、住民基本台帳人口というのは、住基の人口ということですので、そもそもその住基の人口と国勢調査の人口というのは合っていないわけなのです。それで、人口につきましては、住民基本台帳人口の、言い方は悪いですけれども、現在に近い人口のところを引用させてもらっております。

江渕委員：佐賀県の統計年鑑というのは、国がやる５年間のデータではなくて、毎年それデータとして年鑑をまとめています。だから、人口についての、いろいろなデータというのは、国勢のデータとまた違うのではないかと思うのです。

事 務 局：県のほうの数字は、国勢調査の数字を使っておりますので、そこから、各年の間のところは、差し引き、増減をかけています。

事 務 局：すみません、婚姻件数につきましては調べさせてください。また、人口動態、社会動態については、毎月、県のほうに報告する報告書があります。それに基づいて、転入数、転出数の値で記載したものをこちらのほうに掲載させてもらっております。補足なのですけれども、※印のところに「人口の増減イコール自然動態プラス社会動態増減ではありません」とあるのですけれども、この中には、住民基本台帳上、職権消去とか、その他の扱いで

消去するような場合とかがありますので、必ずしもイコールではないということで、こちらのほうは掲載させてもらっております。佐賀県統計年鑑については調べさせてください。申し訳ありません。

江渕委員：あと１点だけ。資料２の２ページにデータがいろいろあるのですけれども、この中で気になるのが、先ほど説明されたように、基山町は佐賀県内において１位ですよと。－53.4％になっていますよと。人口が収束しない場合については－62.1％ですよと。それと鳥栖市を見てもらうと、鳥栖市は佐賀県の推計で－8.7％、人口が収束しない場合で－2.4％。当然、基山町と全然数字が違うのです。ということは、何らかの原因が基山町にあるのではないかなと思うのです。そこら辺のところをどのように感じておられるのか、お聞きしたいのです。

事 務 局：その件に関しましては、鳥栖市と基山町は位置的にもそれほど変わらないわけですので、実を言いますと、通勤という面から言えば、そんなに差が出るわけではないのです。前回から、何度も申し上げておりますけれども、基山町は人口を増やすということを念頭に置いておりまして、今まではソフト事業をメインに置いてきたわけでございます。いわゆる住宅地をつくるとか、そういうハード事業につきましては行ってこなかったわけでございます。そこで、今後は、１万8,000人という数字を上げておりますけれども、少し、いわゆる市街化区域外の農地がだいぶありますので、そこに向けて、いわゆるハード事業も含めた対策を行っていけば、１万8,000人は可能ではないかと考えております。

天野委員：資料１について質問ですけれども、左側の真ん中のグラフです。転入数について、25年に比べると、平成17年の数字に戻った感があるのです。これの要因というか、転入数が増えているわけではないのでしょうけれども、前年と比べても増えているので、何かしら分かっている要因とかがあれば教えてください。

事 務 局：実を言えば詳しく分析したわけではございませんけれども、感じておりますのは、ここ３年ほど、いわゆる民間事業者の小規模開発が熱心に行われましたので、その関係で転入が増えたのかなという感じは持っております。そのほかで、特に転入の原因となるものは、今のところ心当たりはございません。

森田会長：人口の推移について、いかがでしょうか。

永家委員：今、課長が言われたように、人口１万8,000人を目標にしているということですが、実際に１万8,000人にするには、私が思うには、市街化調整区域を

市街化区域に変更して、住宅の開発なんかも必要ではなかろうかと思います。ただ、私は素人で分からないのですが、市街化調整区域から市街化区域に変えた場合、田畑を持っている農業関係の方の土地の問題ですが、市街化区域になれば当然、宅地並みの課税がされるのではなかろうかと思います。そうなってくると、市街化区域にしてもらいたくない、農業を続けていきたいという考えのときには、農業者の方は困るなというのが１つあります。

それで、今問題になっている、旧庁舎跡とか、旧公民館跡とか、けやき台の土地なんかを利用して、まずそちらを開発してから、人口増につなげていってもらいたいなと思います。

もう１点は、私は区長会からの代表で来ているのですが、このたび企画政策課から、総合計画の策定のために地域別の座談会のアンケートを採るようにということで各区にアンケートを渡しています。

ただ、私が所属している10区は、大体世帯数は340、人口にして822人という状況で、基山町17区の中で平均くらいの世帯です。その中で、基山町で断トツ１位の高齢化率を占めていて、アンケートをすると高齢化率の問題が非常にたくさん出てきます。それで、皆さんが言うには、高齢化して自治会制度が実際継続できるのか。できないとするならば、例えば隣の区との合併もあるのではないかと。そうなってくると、あそこの区とは合併したくないとか、いろいろ問題もあるのです。それは区ではなくて、10区の組の問題にしても同じことが出てきている。

実際、10区の問題としては、組で一番小さい世帯は、ひと組６世帯数なので、私は６世帯のところを合併できないかと役場に相談に行ったら、区がＯＫならば役場は何も言いませんと。それで、運営委員会に諮ったところ、６世帯のほうが言うには、隣の組とは絶対一緒にはなりたくないと。逆に受入側の組も、やはり受け入れしたくないということで、全然まとまらずに今現在に至っています。

そういうことで、先ほど言いました、区の合併辺りも同じことではないかと思うのです。例えば、10区が高齢化で実際運営が困難ということで、隣の区に合併させてくださいと言っても、受入れの区は、あんな高齢者が多い所は受け入れないというようになるのではなかろうかと思うのです。そうなってくると、自治体自体が崩壊して町全体にも響いてくるし、自治体の運営費であります区費なども減少して、私はもうそういうところには、区にも、組にも入りたくない、脱退しますというのが、現在アンケートでも出ているのですね。そうなってくると、本当に、この自治体制度の崩壊につながるのではなかろうかと思います。

そうならないために、我々区長会としてもいろいろ検討して、役場とも相談をしながらしていかないといけないだろうと思いますが、とにかく人口の１万8,000人の目標は、今、減少傾向にある中で一番難しい問題ではなかろうかと思います。やはり何か施策がないと、基山町のように大きな企業があ

るわけでもないし、若い人の減少が多いと説明を受けましたが、これはもうみんな一極集中ということで、福岡市辺りに若い者がみんな働きに出ていき、減少が続いております。10区も、ほとんどが、じいちゃん、ばあちゃん世帯です。子どもが後を継ぐという世帯は、20世帯あったら1世帯くらいの割合しかありませんので、これではもう子どもが増えるはずがない。

やはり、何かの施策をしないと、人口の減少のほうが多くて、1万8,000人の目標というのは、到底不可能ではなかろうかと考えます。

すみません、長くなりました。

事 務 局：まず、市街化区域の拡大の話ですけれども、そういう方法というのは最後の手段かなと考えております。実を言いますと、まず、市街化区域内の農地を活用して、人口増対策をやらなければいけないと思っています。それから、今言われましたとおり、人口減には具体策が必要だということにつきましては、前回の総合計画において、ソフト事業を行っていけば人口はそんなに減らないのではないか、もしくは増えるのではないかということで目標を立てておりました。しかし、こういう人口減少社会になりまして、そういうことにはなりませんので、できるだけ市街化区域内の農地とかの活用により、人口増を図りたいと考えております。

最後の手段として、市街化区域の拡大という話もあるのですけれども、基山町は幸い、市街化区域が非常に狭うございます。これはどういうことかというと、ほとんど駅から歩いて15分圏内、人口が密集している所は10分圏内です。これは基山町の、将来人口が減っていく時代に向けた1つの強みだと思っています。どうしてかといいますと、いわゆる電車でそんなに遠くないところですので、いわゆる空き家が出るというのは少ないのではないかと考えています。実際問題としましても、平成20年の住宅統計調査で、佐賀県内は13%くらい空き家があります。基山町は4.3%くらいです。これにつきましては、基山町は非常に駅に近いという良好な地区にあるので、空き家がそんなに出ないものと考えています。あまりむやみに市街化区域を拡大しますと、市街化区域の周辺部においては、住宅を建てたものの駅から遠いので、本当に人口が減る時代になったとき、そこら辺が空き家になってくる可能性もあります。市街化区域の拡大につきましては、極めて慎重に取り計らう必要があると考えておりますけれども、それが全く視野の中にないというわけでございません。

地域コミュニティの問題につきましては、先ほど久保山のほうから説明しましたとおり、人口が減ってくれば、高齢化が進んで地域コミュニティの運営が困難になってくるという問題は、どこでもあることでございます。実際問題として、いろいろな地域の話、私のところにきます。今、どこそこの行政区にいるのですけれども、コミュニティのもう1つ下の単位の運営がなかなかいかないからもう脱退させてくれとか、いろいろな話が出てきます。そういうこともありますので、大まかには1万8,000人ということを考えてい

きますけれども、やはり、各区単位の地域コミュニティの問題が表に出ている以上は、どこまでできるかというのは地域の問題にもなりますので難しいのですけれども、総合計画の中で町として何らかの施策が必要な時代ではないかと考えております。

森田会長：ありがとうございました。また、当然関連しますので、今日の主な議題であります基本構想（原案）の審議に入りたいと思います。

（２）基本構想（原案）の審議について

森田会長：基本構想は、初回の時にもご説明いただきましたが、それに加えまして、今回補足等ございますか。特にありませんか。

事 務 局：ございません。

森田会長：では、基本構想を少し振り返ってもらいながら、ご意見をお願いします。

江渕委員：基本構想ということですけれども、基本計画をつくるときには、多分、全体４回は、基本構想と基本計画と実施計画、３段階になったと思うのです。最近は、３構造ではなくて２構造という形でつくられている所もあるのですけれども、基山町はあくまでも、前回どおり、３構造で考えておられるのかをお聞きしたいのです。

事 務 局：江渕委員さんがおっしゃられたとおり、総合計画の基本構想がありまして、そのあと、基本計画、実施計画といった３構造のつくりになっています。今のところ、皆様のほうにご審議いただいているのは、基本構想の部分になっております。

森田会長：基本構想は、３つの基本理念を示した状態で、基山町の８つの地域の目指す将来図ですね。先ほど人口減の要因に対して、ハード・ソフト両面でどういった方針でやっていくかというのは、基本構想の骨格になってくると思います。細かな計画内容については、その次のステージになるので、今、基山町が目指す姿というところを中心に、ご意見等、頂ければと思います。

天野委員：先ほどから１万8,000人という数字が出てきているのですけれども、私も最近、周りの自治体を見ながら、どういう将来の姿がいいのかなと。

１つは、西鉄沿線で筑紫駅がありますが、そこにお住まいの方には非常に恐縮なのですけれども、駅前にマンション・アパートが乱立してきまして、例えば基山の駅前が同じようにときにどうなるのか。先ほど、永家委員がお

っしゃったとおり、今、大切に培われているコミュニティが継承されるのかどうかとか、人口が増えたからどうなるんだろうというような、漠然と、気持ち悪さではないのですけれども、単純に利便性がよくて福岡に近いからといって、都市のミニチュア版みたいなものを駅前につくっても、どうなのかなと思います。そう考えていくと、確かに人口は増えてほしいのですけれども、人口を増やすという数字ありきで計画が進んでしまうと、非常に危ないなという思いにさせられました。

私たち30代は、時代としてどうなるんだろうというような漠然とした不安があるので、よく草食系だとか言われますけれども、先ほど、永家委員がおっしゃったとおり、これまで築かれたコミュニティは継承しつつ、私たちもまちづくりに関わっていきたいなと思います。

１つ面白い具体例があって、福岡であったり、東京であったり、東京の例はニュースを垣間見た程度のレベルで申し訳ないのですけれども、東京に住んでいる若者が、地方に移住したいという要望が増えていると。実際に、移住の説明会ではないですけれども、そういったことが行われているのです。福岡では、福岡移住計画というプロセスの名前で、恐らく企業と人材派遣会社が絡んでいると思います。それから、行政と一緒になって、面白い取り組みをやられているようなので、何かそこら辺を参考にして、話が少し漠然としてきましたけれども、数を追うのではなくて、基山町が求めるような人たち、特に若い世代でいうと、都会に住みたくないという層も、全体のパイからすると多くはないかもしれないですけれども、確実にいると思います。

今、数字で、女性がどんどん転出しているという話がありましたけれども、特に女性に関しては、健康志向であったり、緑と触れ合いたいという需要は男性に比べると多いと思いますので、その辺りは十分に活かしていけば、まだまだ魅力的なまちにできるのではないかなと思っております。

微力ながら、何か貢献できればと思っています。

森田会長：今、ご意見あったように、この構想で３つの戦略の、人づくり、価値づくりというところに、目標というか、大きな位置付けがあるかと思います。

林副会長：基本構想という視点から申し上げると、少し不足している点があるのかなと思われるところがございます。

まず１つには、一番最初に、基山町が課題として捉えているところはなんですかと申し上げたのですが、強みというところから入っているわけですね。その答えとして、町民アンケートですとかワークショップとか、そういったところから、ずらずらとたくさん課題が出てきたのです。それをもう少し整理して、例えばこの背景とかいうところも、まずは現状抱える課題は何かという課題の認識をしっかりと入れておくというところが、まず不足しているのではないかなと思いました。ポジティブなのはすごくいいと思うのですが、やはり、課題として何を捉えるかということで、この間、芳野委員から、例

えば交通が20分ということも強みとしても捉えられるけれども、逆に20分という利便性が流出にもつながるというようなこともありました。何ごとにも両面あると思いますので、その裏の面もしっかり捉えた上での、基本構想、基本計画というのは必要だと思います。そこを整理していただいて、やっていただくといいかなと思います。

それと、課題というのは、やはりその背景というところにはなるのですけれども、もう１つの視点から、将来構想ということを考えますと、例えばシステムでも「要件」がありますよね。まちづくりというのも「要件」があると思うのです。

１つには、防災とか安心・安全、教育の質の充実、交通整備とか、いろいろあると思うのですが、その要件というのも、何となく少し見えづらいものになっているのかなというのがあります。もちろん、それぞれの要件というのは細分化された形でいろいろなところには入っていますが、例えば国の審議会などでもレジリエンスとかいうようなことで、強靭化ですね。防災は基山町の構想案にも入っているのですが、例えば、エネルギーの自立といった視点が足りないのかなというのは少し気になっているところです。

そういった少し大きな視点で、要件というものが何か、これから将来に向けてどういうまちづくりをすべきなのかというところで、少し入れ込んでいくといいのではないかと感じております。

これは付け足しになりますけれども、先日、私、基山町の若い女子と一緒におしゃべりをしました。女子中学生、女子大学生、そして 20 代の女子で、３人ともすごく基山が大好きな、基山に住んでいる元気な女子なのです。彼女たちは基山が本当に大好きで、基山町は友達もいいし、緑も多いし、住むのに最高というのですね。では、例えば将来、この基山町は消滅可能性都市に挙げられているけれど、なくなったとしたら鳥栖と一緒になりたいか、福岡と一緒になりたいかと聞いたのです。鳥栖とは一緒になりたくないと言いました。では、福岡と一緒になりたいかと聞いたら、福岡とも一緒になりたくないと言ったのです。

そう言いながらも、１人は、実は私の娘で、福岡の大学に進学しているのですけれども、ここは学校が遠いから福岡に住みたいと毎日のように言うのです。そんな中で、どうしたらみんなが帰ってこられると思うと聞きましたら、何か誇れるものが欲しいと３人とも言っていたのです。それはハードなのかソフトなのか、いろいろなことが考えられると思うのですけれども、誇れるもの、それから進学先、大学ですね。サテライトでもいいと思うのですよね。それから就職先、産業がもう少し、就職先があるといいと思うのです。大学のサテライトがあると、例えばそこに大学生が集いやすくなりますので、それでまちづくりに関わってくれる若者が増えると思うのですね。

そういう意味でも、大学とかの誘致、そこでやはり高齢者も学べますし、人材の育成もできるので、何か１つのハードの解決で、ソフト面の解決にも波及効果がありそうな気もします。そんなことをつらつらと思った時間でご

ざいました。すみません、よろしくお願いいたします。）

森田会長：やはり、価値をどうするかというところが大きなテーマだなと思います。背景になる課題は表裏、裏返せば強みが課題にもなる、課題が強みにもなるという関係があるので、その辺はうまく構想の中で、資料としての扱いを、これは初回でもご意見出ていますので、今回の基本構想の冊子のほうが、全体にプロモーション的なまとまりにもなっています。ベースになるデータを後ろに付けるなりする必要があるというのは、初回から出ていましたので、よろしくお願いします。ほかはいかがでしょうか。

原(憲)委員：副会長のお話を聞いて、そのとおりだなと思いながらも、今のようなソフトもハードも含めて、実現させていく中で、果たしてそういう構想が、キャパとして１万8,000人という数字が、基山町の大きさの地域で実現可能なのかどうか。地域のキャパが、人としても地域としてもふさわしいのかなという気が一方ではしながら、そういうものがいろいろな知恵を出し合いながらできたらいいのかなと。あるいは、それでは足りない、面積的にもそういうことではいけないということで、もっと大きな地域の中で考える構想、その中の１つの地域として、行政だけではなくて、よその行政と連携しながらやる部分が必要なのかなということも感じました。

一方では、基山の将来が合併の問題も含めて見えないという中で、当面10年間は、何とかこのままの状態で、人口的にも、最低限、現状は防いでいこうというのなら、10年をめどにした構想に押さえたほうがいいのか。私も、聞きながら悩んだのですよね。住民の皆さんも知恵を出しながらいろいろなことを仕掛けて、やりたいことはいっぱいあるので、それを総花的にやりたくても、本当にそれでいいのかなという気もあって、果たして、この構想を持ちながら、行政は実施計画にのっとってやっていくわけですから、あまり広げるのがどうなのか。あるいはこの構想を見た町民の皆さんが、基山町はこういう姿を目指していくのだから、ぜひ参加して自分も何かの役に立とう、あるいは皆さんが、出ていった人が、親戚縁者家族も含めて、帰ってくるようなまちにしていくために、自分たちが動いていこうというようなものがつくれるか自信がなくなってきているのです。本当に、言うなら私この場から逃げ出したほうがいいのかなと思うくらい、林副会長の話を聞きながら考えさせられたところではあります。

堅実ではないですけれども、やれるところはどこなんだと集中して、ここだけは、基山町の総意としてやっていこうというような、義務的な総合計画ではなくなったのだから、そういう総合計画のつくり方もありなのかなという気がしたという感想だけ述べさせていただきました。すみません。

江渕委員：先ほど、人口のデータを見せていただいたのですけれども、それから１万8,000人というプロセスが全然見えないというのが１つあると思います。

それと、1万8,000人というのは、課長さんが言われたように、面積的に可能ですよということなのですけれども、そういうことをしていけば、要するに、20年先、30年先の都市計画を考えた場合、非常に効率の悪い都市計画になるのではないかなという気がします。

あと1つ、新基山構想というのは、第1回目以降説明していただいたいのですけれども、それからいろいろ議論が出たのですが、その内容は変えなくて、もうこれでつくっていきたいということなのでしょうかというのをお聞きしたいと思います。

事 務 局：いろいろな意見が出ている中で、まず、まちづくりに関して、人口の具体策が見えないということですけれども、これにつきましては、基本的には1万8,000人という目標を掲げて、これに沿うように具体案をこれから練っていかなければいけないと考えております。

市街化区域の拡大という話は、議会からも随分いろいろな話で出てきておりますけれども、それを全く考えないというわけではございません。実を言いますと、先ほど申し上げましたとおり、基山町は市街化区域が非常に狭い。おかげさまで、空き家が出てこないというメリットもございます。そういうことを勘案しながらやっていかなくてはいけない。ここの基本理念に書いておりますとおり、自然と共生したまちづくりというのですか、これは基山町でないとできない。

私がいつも思うのは、久留米から博多まで、これは巨大な、まさしくメガロポリスですよね。その中で基山町は、駅から10分も行けば緑のある所に行けるわけです。こういう町というのは、この沿線で少ないと思います。それは、恐らく基山町の魅力だと思います。今後10年経過すれば、福岡市の人口も減っていきます。もう福岡市への人口圧力はなくなるわけですから、基山に住もうという人も少なくなるかもしれない。そういうときに、ほかのまちと一緒に市街化区域をどんどん拡大すれば、果たして基山町は魅力あるまちになるのでしょうかというのもありますので、私は基本的に、あまり不必要に市街化区域を拡大する必要はないのではないかと思います。

では、駅前にどんどんマンションを建てるのかという話になるのですけれども、これにつきましても、民間がマンションを建てられるのに、基山町として制限することはできませんけれども、土地の活用につきましては、やはりマンションがたくさん建って、隣は何をする人ぞという、基山町はそんなまちではなかったと思っております。基山町は、行事も多くて少しせからしいな、それが住みにくいとおっしゃる方もいらっしゃるわけですけれども、日ごろから隣近所との付き合いがあるからこそ、安心・安全の町ができると思っておりますので、そういうことを町としてはしていかなければいけないと考えています。

それから、江渕委員がおっしゃいました、これでやっていくのかということですけれども、我々としては、最初提示しましたこれでやっていきたいと

考えております。

森田会長：今、基本構想の意見を頂いて、当然、少しこの対応に加味されるものであるとか、加わるものはあるわけですね。原型がこれであるとご理解いただけるとよろしいかと思います。やはり、よく言われる話ですけれども、持続可能な町というか、衛星都市、ベッドタウンのような形で、ただただ、人口を増やすという20世紀型のまちづくりでは到底駄目でありますし、基山が持っている本質的な魅力を活かした町の計画というのが必要だろうと思います。

恐らく、数年間、ただただ、戸数を増やしていくという土地の拡大ではなくて、長期間にわたって定住性を考えて展開していくことが、多分ここには必要だし、ここでしかできないことかもしれないなと思います。ほかに、いかがでしょうか。

原(利)委員：あまり農業に関係ないような話でございますけれども。今、３回、お話をずっと聞いてまいりましたのですけれども、今、基山町にどういう人たちが住んでいるか。先ほどのコミュニティの話がございましたけれども、以前からずっと住んでいるコミュニティもございます。そこには問題もございます。新しいコミュニティが、マンションとか団地とか、基山も２、３カ所できましたね。それができたときには大歓迎して迎えて、それに対応する箱物とかつくりましたけれど、大都市の団地と同じような衰退を迎えているわけです。今、人口減少が悪いようなお話ばかりされていますけれども、世の中に悪いことばかりないです。逆にいいこともございます。その辺を考慮していかないと、人口が減ったら悪い悪いで――私たちが子どものころは、日本は諸外国に比べて人口密度が多過ぎるという話を聞きまして、それの弊害のことも聞かされました。最近は、子どもが少ない、人口が減っていく。それさえ言っておけば通るような感じです。

ここに「消滅可能性都市」と、びっくりしたことが書いてあります。この辺はよく分からないけれども、私の人生経験で、こういう脅し文句のようなことが当たったためしはないですよ。役所的な統計資料によるものではないかと思いますけれども、先ほど申しましたように、もっと、今の基山町がどういう現状にあるか。人口が増えなくても、これで満足している人もいるのです。考えればすぐ分かることです。

例えば、団地をつくりましょう。そこに入ってこられる方はよその人ですよ。そこで一生懸命ローンを払って生活して、子どもをつくって、ただ、その子どもたちはそこにはいません。よりいい所に出ていきます。そういう繰り返しになってしまいます。今の市街化区域が、工場になるか、住宅になるか分かりませんけれども、それで人口が一時的には増えるでしょう。けれども、また10年、20年したら減っていくような推移をたどるのではないかと、私は思います。

それともう１つ、基山町は狭い佐賀県の外れの町でございますけれども、昔からの農地も残っております。農地は残っていますけれども、一番仕事がしやすい農地は全部市街化区域になっております。仕事のしにくい、山間部、中山間地、今、そこに農地としてございます。非常に作業がしづろうございます。経費が余計かかります。そういう問題で、農業のほうも非常に高齢化が進みまして、後継者がいないという問題がございます。だけど、今の町長は、立派な農業をつくって、景観も立派にしなくてはいけないと、絵空事のようなことをいつもおっしゃいますけれども、実際、農業の改革や助成とか頼むと、あまり乗り気ではない。そういう状態でございます。

何を言ったか分かりませんけれども、とにかく、あまり絵のような夢語りの計画を作るより、実際の、今の基山町はどうあるか、そういうところの意見を集約して、このままでもいいかもしれません。もっと人を減らしたほうがいいかもしれません。そういうことも話がございますので、そういうお話をじっくり進めていかれたらいいのではないかなと私は思います。

神原委員：今、原委員が夢のようなという話を言われましたが、この間、観光協会の総会のときに、夢を持たなければいけないと。夢を描くことが希望であり、ですから、観光というのは、一つの夢を売るのではなかろうかと思っております。そういった意味で、暗い話になりがちでございますけれども、基山町は非常に立派な自然があって、素晴らしい史跡がいろいろあって、夢を売るという面では非常に恵まれていると思います。

ですから、基山でなければできないこと、先ほどお話を頂いておりますが、そういったことをもっともっと拡大して、地域に対して、基山ができることはどういうことかという視点からも、基本構想を考えていただいたら、もっと夢があって楽しい未来が描けるのではなかろうかと。楽しいことばかりではございませんけれども、そういった視点もひとつ大事にしていただきたいということで、あえて言わせていただきました。

中村委員：私も、この会議に入るのは２回目であります。基山の基本構想はこれで十分と思いますけれども、まず原点に立ち返ってもらいたい。私は、46年から、熊本、宮崎、鹿児島とよそを回っていました。だけど、やはりふるさとの基山町で、こっちに帰って、変わったなというのは、まず駅を降りて、すぐの所に保育園があって、駅の前に山がありました。それが開発されて、新しい道路が走って、大きな５号線と３号線につながっておりますけれども、これから、恐らく少子高齢化で高齢者が増えると思います。25年末、基山は65歳以上の方が4,624名に達した、そういう数字です。まだまだこれから老人が増えます。だから後期高齢者の住みよいまちづくりということで、特に福祉関係ですね。今も少子高齢化には取り組んでいますけれども、まだまだこれからが、要介護や要支援が出てくるので、人を増やすならば、そういう中で考えて、ぜひ、住みよい明るいまちづくりということ

で入れてもらいたいと思います。

なかなか、年をとっていろいろと迷惑をかけますけれども、いずれにしましても、みんなで取り組んで明るいまちづくりを、ぜひつくりたいと私も考えております。努力しますので、よろしくお願いいたします。

森田会長：ありがとうございます。では、平田委員、お願いします。

平田委員：基山町の民生委員をしております。これからの10年計画ということですけれども、我々今から団塊の世代が、この10年間の中にどっぷり浸かる年代でもあります。この団塊の世代の、リタイアされた方たちの埋もれた人材というのは、本当に若い世代が計り知れないくらいの人材があるのです。その方たちを、今現在、私も感じているのですけれども、地域活動でそれぞれの校区の自治活動をされている方たちの中で、やはり団塊の世代の方たちが原動力になっていらっしゃるのではないかと思います。

そして、私もですけれども、この団塊の世代の子どもは大体２人だったのですけれども、その子ども、私たちの孫世代になってくると、３人産むという方もたくさんいらっしゃるのです。私の周りでも、子ども３人といっても誰も驚かない、３人は普通よと。４人までは許容範囲かなと。５人は、あ、５人！　という感じです。だから今、人口推移の中でも、徐々に出生率が上がってきているかと思うのですけれども、23年の「子育ての細分化」というのも響いているかと思っております。すごく育てやすくなったとか、保健センターでもいろいろできるしという声も私の中に入ってきております。

ですから、40年で消滅とか言いますけれど、40年後は団塊の世代はもうおりません。これから10年の中で団塊の世代が頑張って、その後バトンタッチしていく。今の団塊の世代は、地域、郷土愛というのを強く持っておりますので、そういうのが基山町の中でもこれから根付いていくのではないかなと。

これから人口を増やす、何かを増やす、増やすではなくて、量より質をとっていった政策をしていただきたいと思っています。人口減は世界中どこでも同じ条件です。その中でどれだけ、心が豊かになる自治体をつくり上げていくかのほうが、大切なのではないかと私は思います。

森田会長：ありがとうございます。ほかは、いかがでしょうか。

田口委員：商工会の立場から少し話をさせていただきますが、１回目、２回目からずっと言い続けていることは、皆さんがおっしゃるようなことと同じなのですけれども、第４次総合計画で２万1,000人を目標にしますといった計画が、10年に１万8,000人を割ってしまっていると。では、この場で、また少し目標を掲げて１万8,000人にして、10年後どうなっているのかという話がもう一回起きてくると思います。

鳥栖市だとかそういった近隣の所もそうでしょうけれども、やはり、減少傾向にあることは間違いない。では、その中でこの第５次総合計画をどう作っていくかという中身の話になれば、やはりどうやって魅力を出すか、先ほど副会長がおっしゃったように、ブランドをどうやってつくっていくか、基山というブランドをどうやって売り込んでいくか。そこに大事なのは、前からお話しているように、定住人口を闇雲に増やすのではなくて、そこで交流できる人口を増やしていくと。

前、この総合計画の概要の中にも、目標交流人口を502万人にしましょうという話があって、500万人というのはパーキングが入っているからなのでしょうけれども、それは別問題としても、やはり我々商売人も、このまま事業が順調に続けられるなんて思っている人は恐らく一人もいないです。必ずどこかで淘汰される。今、日本全体で起きていることは、倒産は少なくなりました、しかし廃業するところが格段に増えてきました。それは後継者もいない、そして先々この商売をやっていても、もうジリ貧になるばかりだから、やめられるうちにやめてしまおうという隠れ倒産が急激に増えていっているということが、新聞メディアでも盛んに言われるようになりました。

基山でも同じ傾向が出ておりまして、前回も話したと思いますが、個人商店さんで跡取りがいないのでやめられるといったところが、今後５年、10年の間で何十軒という形で出そうな数が挙がってきていると。

では、新規で増やしていけるかというと、非常にそれは難しい。何か幽霊会社のような会社がけやき台の中で、個人でやられているとか、自宅がお店の登記になっているという所がたくさんあるのです。しかも、それが増えているのですが、そういった人たちの商売の実態は基山にはないので、商工会に入ってくれという話もできない。言っても、いや、うちの商売はネット上だし、あるいは東京だからとか、そういったことでもう見向きもされない。

そういう中で、できない、できないばかりではいけないので、先ほど観光協会の話をされましたし、私も会長を仰せ付かっておりますので、我々も、夢を一生懸命語りまして……神原委員から背中を押していただいておりますが、ここの中に含まれる５つくらいの項目があって、しかしその中で、では、どうやってそれを活用していくかということが、いつもあまり議論されずに格好だけ載っているというのが多いのです。

前回の第４次総合計画の時もそうです。自然が素晴らしい、歴史がある、遺産がある、史跡がある、災害が少ない、こういったことがずっと言われ続けてきているわけですけれども、そういうのは当たり前に存在しているものです。それを、ではどうやって、この 10 年間で活用してきたのかなということを振り返ってみると、ほとんどできていないと思います。

では、これから一生懸命やりますといって、基肄城も 1350 年に向けて何かやらなくてはいけないなということも思い立ちは始めていますけれども、そこもインパクトが非常に弱い。そういうことを考えれば、もう少し利活用の方法を具体的に述べていくことが、今度の第５次総合計画の一番大きな主

眼点になりはしないかと思います。

こんなにいい町なのにと、みんな言われる。しかし、こんなにいい資産があるのに何も利用できていないではないかという裏側にもなる。そういったところを含めて、きちんと道筋をこの計画の中に盛り込んでいく必要があるかなと。そういう意味では、この基本構想の中身も、どういうふうに利用していきたいという夢をもう少し書き込んでほしいと思います。何かあるということで、基肄城もある。史跡である。それはいいことですけれども、では、どういうふうにこれを活用したいという夢の部分をもう少し語ってほしいし、何となく利用価値がここから見られない。そういうこともお願いしたいと思います。

あと、人口増も非常に重要な問題で、１万8,000人が悪いと言っているわけではありません。目標値は掲げておかないと、目標すらも達成できないし、現状すらも維持できないということになりますから、ある程度の目標は高く掲げるべきだと私も思います。ただ、そのために住宅を増やしていくという施策も大事ですけれど、商工業の立場で言えば、やはり企業も、今後非常に大きな瀬戸際に追い込まれると思います。前回もお話ししましたが、基山には工業団地がありません。空いている所を狙って誘致ができている企業もありましょうが、今後、そういう働く場所というのが非常に大きなポイントになると思います。

なぜこういうことを言うかというと、前回も話しましたけれども、非常に世の中の集約が激しくなってきている。そうすると、今現在、基山町にある企業が、今後、将来ずっと居続ける可能性は分からないという話になります。「いや、伊藤ハムさんとか、コカコーラさんとか、あんな企業がなくなるはずはないよね」と皆さん思っているかもしれないけれど、それは現実になるかもしれません。これからの世の中で、そういう保証はないですね。

前回話したとおり、新聞、テレビでも盛んに最近述べられるようになりました。生産人口が減って、消費人口が減る。そして海外にシフトしていく。日本で物を作っても売れない。じゃあ外国に行く。若年層がどんどん減る。そういったことを含めて、企業が統廃合していく。半導体の工場は、九州は半分になってしまいました。もっと減ります。液晶なんて全滅。自動車もかろうじてという話はこの間にしたとおりです。それが、やはりほかの産業にも飛び火しようとしていっています。

この辺は、経産省九経局、芳野部長が一番ご存じなんでしょうけれど、そういうところもよくよく見ておかないと、このまま基山に優良企業が居続けられるとは思ってほしくないのですね。そんな甘い世の中ではなくなりつつあると思います。そうすると、定住人口を増やすために住宅も大事ですけれど、働く場所も見つけておかないといけないということになります。やはり両輪で労働環境も保っていかなくてはいけない。

そういうことを含めて、今度の第５次総合計画には非常に大きな意義を設けておかないと、また空回りしてしまって、目標が達成できなかったではな

いかということにつながりかねないので、私としては、ぜひともそういったところを含めてお願いをしたい。

今後 10 年間のこの計画の中でいろいろ議論はされると思いますが、先ほどの駅前だとか役場の跡地だとか、そういった利用価値をどうやって見いだしていくか。駅前を全体的にもう一度再開発するのか、しないのか。駅から一歩降りて、誰もいないような駅前通りを見て、誰か人が本当に心うきうきして基山に来てくれるのかなと思うのを見ると、非常につらい思いをします。

しかし、では、それを一から作り直すというのは、この時代、非常に難しいわけですから、我々も売り方をいろいろ工夫しないといけない。そういう意味で、経済産業省のものづくりの補助金だとか、にぎわい商店街の補助金だとか、いろいろ活用させていただきながら、まちおこしのために頑張ってはいますけれども、なかなか、それは自力でやるのも限界ですから、いろいろな意味で行政もそこにタッチしていただけるような施策を、どんどん今後の総合計画の中にも盛り込んでいただいて、活用できるような具体的な方策が見えるようなプランニングが必要かなと思います。絵に描いた餅で終わらないようにお願いをしたいと思います。

事 務 局：今、いろいろな意見が出ました。

まず、人口問題の１万 8,000 人という数字を上げております。これだと可能だと判断はしているわけですけれども、むやみに人口を増やすという発想では今のところございません。役所の人間としましては、将来推計、人口が減るのだから、人口が減りますよという総合計画を作るのが、実を言いますと、皆さんも納得されるわけですから一番簡単です。でも、それだと町としていいのかという問題がありますので、我々は、そこはやはり努力が必要なんだという意味で１万 8,000 人という数字を上げております。

人口が減少すると、先ほどの資料３にも上げておりますけれども、何も起こらないわけではないわけです。いろいろな問題が出てくるわけです。今、道路とか橋とか、いろいろなものの長寿命化計画というのをまちづくりのほうで作っておりますけれども、これでも相当の金がかかってきます。それを放っておくわけにはいかないわけですから、維持していくには、やはり人口も維持していかないといけないという基本的な考え方はあります。

それから、人口を維持していくという努力をすれば、当然、先ほど申しましたように、商工会とか企業の問題でもあります。人口が減れば需要が減るわけですので、商工会もだんだん少なくなっていくという問題もあります。もうやめるという方もいらっしゃるでしょうけれど、人口を維持すれば、少なくとも現状は、ある程度、商店街は維持していけると思っております。

基山町は、住宅をつくれば、割といまだ現状、入居していただけます。不動産屋に聞きますと、来る人が少ないのではなくて物件がないんだとおっしゃるわけです。だから、割と小規模開発されても順調に売れております。売

れ残りということはめったにございません。だから、今のところ順調なところです。しかし、もう 10 年過ぎますと、福岡は人口吸収力が落ちますので、果たして 10 年後、今のような不動産の売れ行きが基山町にあるのかというとこれは心配になります。そこを考えますと、やはり基山町に仕事のできる場をしっかりつくっていくのがひとつ必要ではないかと思っています。

先日、うちに南部化成という会社が進出してきました。これは、静岡県でいわゆる太平洋ベルト地帯という非常に大きな工場地帯の中にある企業ですけれども、そこの人が、静岡とかあの辺はもう何もないですよとおっしゃるのですね。大企業ですから、みんな海外に出ていくわけです。ヤマハもホンダも出ていく。何もないとおっしゃるわけです。

だから、私がそれを聞いて、大企業はどうしようもないなと思うわけです。大企業は、来れば大きいですけれども、規模が大きいので、身軽にあちこち行きます。そういう意味では、私はむしろ、地元のあまり大きくない企業をしっかり支援していくのが、いわゆる人口増というのですか、働く場という面では、私はいいのかなと思っております。

やはり 1 万 8,000 人という目標を立てることによって、いろいろなものが出てきます。前向きな施策が取れてくると思うのです。だから、そういうことは、私は 1 万 8,000 人という意味には含まれていると思っています。

もう 1 つ、私は、基山の魅力の中でひとつ思うのは、やはり自然だと思っています。この自然というのは、もう何物にも代え難いものだと思っております。これは、原委員がおっしゃいましたけれども、農業という問題は、実を言いますと、基山町は少し補助金的には置かれた立場にあります。もちろん、商工会の補助金のほうが多いわけです。ただし、基山町全体で言いますと、経費は農業費のほうがもっと多くつぎ込んでおります。補助金というのは数が少ないのですけれども、人件費とか、いろいろな問題を統合すれば、農業の中にはかなりのお金をつぎ込んでいる状況でございます。

私が思うのは、やはり農業の役割というのがあるわけで、基山町は農業をやって、そこで大きくもうかろうというわけではないと思うのです。基山町は市街化区域が広くありますので、農業をやりにくい所にありますけれども、農業が洪水を防いだり、地下水を供給したり、いろいろなそういういい面もあるわけですし、自然を維持するという面で非常に重要な役割を果たしております。そういうことでは、農業が一番必要で、高齢者の問題も危機的な状況で、やはりしっかりやっていく必要が当然あるわけでございます。

最後に副会長がおっしゃいましたけれども、私は町として、誇りのある町、自分の町はこんな町ですよと語られるようなまちづくりが必要ではないかと思いますので、この辺は皆さんでいろいろな議論をしていただく中から、そういうものがしっかり出てくるといいなと思っております。実をいうと、基本構想ですので、大まかなことしかまだやっておりません。これから具体的な策を練っていくわけですけれども、そういう中でそういうものが盛り込まれるように、皆さんの意見を頂ければと考えております。

森田会長：次に基本計画があって、計画は実行の大きなかじ取りになりますので、構想の下に計画があると。

先ほど、平田委員さんが言われたように、この構想の中にも示してありますけれども、協働のまちづくりというのは、必ずというか、当然進めていく大きな柱になると思います。ですから、協働によるまちづくり、そのときに、要は団塊の世代のアクティブシニアといわれる元気なシニア層のプロボノ活用をしていくとかというのは、定年されてそこに長く基山に住む時間を持たれた方に、協働の中に入ってもらって一緒に実現をしていく。そういうことを、本当に町に根付いた形の計画を立てていけるのではないかなと思いますので、そういうことも、ぜひ入れていただきたいと思います。

どうしても構想全体を見ると、こんな言い方をすると怒られてしまうかもしれませんが、どの町でも言っているようなことを書いてあるという面もややあります。恐らくこの中から、本当に基山が発信できるものはどれかというところを醸成していくことが、多分、計画段階で必要なのではないかと思います。こう総花的に書くのは、コンサルタントさんはすごく得意でさっさと作るのですけれども、そういう中から、本当のこの部分が怖いなというのを皆さんと議論しながら、進めていかなければいけないなと思います。

それともう１つ、私もゆっくり基山の町に来たのは初めてで、来ないと魅力は伝わらないですね。来ていただくには、先ほどの観光という視点、ツーリズムというか、それは農業体験のツーリズムであるとか、いろいろなやり方があると思うのです。とにかく来ていただく。来ていただくことによって、魅力を感じた、ここに住もうかな、住みたいなという動機付けといいますかね。そのためには、来ていただかないことには話が始まらない。来ていただくためにどうするかということこそ、先ほどの協働でいろいろなアイデアを出しながら、きっかけをつくっていくこともひとつ必要かなと思います。

最近、長崎県の波佐見に行ったのですけれど、あそこは今、すごく頑張っていて、どちらかというと民が主導になっている感じがするのですが、企業さんと、実際に、波佐見は陶芸の町ではあるのですけれど農業体験をして、そこで取れたものを一緒に食べるわけです。食べると食器が出てくると。食べることと食器と、それから町を体験してもらうということをセットにして、隣の有田と比べると、とても元気がいい。今、佐賀の有田よりも波佐見がすごく話題があって、近郊からも若い人がどんどん遊びに行ったりですね。そういう来たくなるという体験をすることで、波佐見に行こうかな、みたいなことも生まれているので、ああいう波佐見の事例も面白いなと、今ふと思い出しました。まだ少し時間があります。

芳野委員：九州経済産業局の芳野でございます。１点、少し気になっていますのが、先ほど来、お話があっている人口流出の関係で、産業との関連で人口流出といったものを分析調査したデータがあります。

例えば、大学、あるいは高校を卒業されて、実は今、九州も含めて、地方圏から首都圏のほうにどんどん人口が流出しているのです。そのときに、就職する際に何で首都圏のほうに行くかということを聞いたところ、一番多かったのが、地元で希望する企業がないからが、40%を超えているのです。そのほかの理由として、地域にとらわれず、どこでも住みたいからとか、あるいは都会が便利だからというのもあるのですけれども、一番大きな理由は、やはり働く場所がないからというところが、地方から中央圏に人口流出しているところの要因として一番大きいといったところがあります。

一方で、企業さんの状況を見ますと、先ほど田口委員からもお話があったのですけれども、2009年の統計でいくと、全国の中小企業、小規模事業者数というのが420万社ほどあったのです。2012年が直近の数字ですけれども、それで調べたところ、全国ベースで、中小企業、小規模事業者の方々の数が385万社ということで、約35万社、この間に減っております。これはもちろん倒産もあるのですが、先ほど田口委員からお話があったとおり、廃業といったところもかなり多くあります。

これから私ども、非常に課題と思っているのは、当然、企業誘致ということで、基山町さんも含めて、九州にどれだけ企業さんを誘致して働く場をつくるかということも、もちろん重要なのですけれども、もう一つ大きな柱としてあるのが、事業の承継ということではないのかなと思っております。

例えば、基山町さんで事業承継をされている方が、その経営者の方が高齢化されて跡継ぎがおられなかったり、あるいは、跡継ぎでなくても、第三者に事業を承継しようと思っても、その相手がおられなくて、やむなく廃業といったケースが、結構九州全体としても多いのです。こういう地域ですので、事業の承継をどうやっていくかというところは、これから町の基本計画をお考えいただく場合でも、非常に大きな要素になっていくのではないかと思っています。ここを、やはり自治体がどういうスタンスで臨むかというのも、非常に大きく効いてくると思っています。

それから、事業の承継だけではなくて、当然そこの中で問題になるのは、生活文化の承継をどういうふうにやっていくかという視点もすごく重要です。やはり、住みたくなる町といったもののところで考えていくと、企業事業活動、働く場をどう確保していくかということと、もう1つは、やはり暮らしたくなる、端的にそれが生活文化だと思うのです。そういったところが、世代間で少子化がどんどん進むと、これは次の世代に承継できなくなっていくというところもあるのではないかと思っていて、こういう生活文化の承継も、どうやっていくかというところを見据えながら考えていく必要があるのかなと思っております。

やはり、働く場をどう確保していくかというところで、今、私どものほうで、これから中心になって産業を引っ張っていくような、いわゆる「成長戦略産業」という言い方をしていますが、これは先般、九州・沖縄の各県さん、知事さん、あるいは経済界や有識者の方々が集まって行われた「産業競争力

協議会」の中で、成長戦略産業というのを４点ほどまとめております。

１つは、クリーン産業ということ。これはエネルギー産業であったり、環境産業であったりですね。２点目は、農林水産業、食品分野が、やはり九州で見ると成長戦略産業だろうということで、農林水産業と食品分野の産業が位置付けられております。３点目が、先ほど来、お話があっています観光です。これもやはり地域で見ると、非常に重要な産業ということで言われております。４点目は、医療、ヘルスケア分野ということで、高齢化等に対応した形での医療、ヘルスケアといったようなところを言われております。

これはなかなか、すぐにぴんとくるようなイメージがないところもあるかもしれませんが、実はこういったところというのは、これから産業分野として伸びていくだろうと想定しています。全体のパイがその分野について大きくなっていくので、当然、中小企業、小規模事業者の方々が参入する余地が出てくるのではないかということから、これからそういう分野の中小企業、小規模事業者さんの支援も強化していく必要があると思っております。

基山町さんの中でどういった産業を、全部総花的に支援していかれるのか、あるいは特定の分野を重点的にやられるのかは、まだこれからの議論だと思うのです。いずれにしろ、そういう全体の産業の動きもにらみながら、産業分野については、この基本構想、基本計画の中で、どういう形でどういう手を打っていくかというところを少し細かく打ち込んでいって、先ほど少しお話がありましたけれど、いわゆる基本構想なり基本計画が静的なものでなく動態的なものになっていくような構想なり計画、そういったところに作り込んでいければいいのかなという気がしております。

森田会長：ありがとうございます。いかがでしょう。構想をまとめるに当たって、ご意見はいかがでしょうか。はい、どうぞ。

天野委員：今、おっしゃっていただいた意見は、うなずきながら、見直しながら聞かせていただきました。私も、計画が出来上がったということで、うなずいて、これで動こうというようなものも、もちろん大事なのですけれども、私は、田口会長が母体の商工会の青年部という組織に属しています。それから、鶴岡さんが町の消防団に所属しているのですけれども、非常に今、これまでの枠組みどおりに動いてうまくいかないことがすごく増えてきたのです。

それは一つキーワードとしては、リーダーシップがなかなか取れなくなってきたと。上から目線で、上からこれでいこうということで、なかなか皆さんが動いていただけなくなってきました。そこで、みんなの総意を取るといいますか、合意を確認しながら物事を進めていくというのに、今、非常に苦心しているのです。

町の計画自体も、もちろん 10 人いて 10 人の皆さんの合意を取ることは非常に難しくて不可能かもしれないのですけれども、ある程度、そういう合意

を確認しながら計画を進めていくような仕組みが、計画の段階で盛り込まれていると非常にいいのではないかなと思います。

森田会長：非常に大事なことですね。合意形成は、全てを合意できるかということはあるのかもしれませんけれども、話し合うこと、お互いに意見を交換し合って共に作っていくんだというところですね。そこはとても大事だなと思います。

江渕委員：第１回のときに言ったか分からないけれども、この新基山構想の中の２番目に「基山町が目指す将来像」とあります。これをずっと見て、では、基山の将来はどういう町を目指していくのか、なかなか私自身は、見ただけでは非常に分からないと思うのですけれども、いかがでしょうか。

事 務 局：実を言いますと、今の時代の作り方だと思うのです。基本的には、１ページの最初に書いているように、基本理念というところが基山町の将来像と考えていただくのが一番いいと思うのです。ただ、これを実施して動かすときには、基山町が目指す将来像、「アイが大きい基山町」と書いておりますけれども、こういうほうが今の若い人向けにして進めやすいのではないかと思っております。

従前で言いますと、まさしく１ページに書いてある基本理念のところを打ち出して、総合計画を作っていくというのが基本的な考え方でした。今、多くの人が参加してもらってやっていくには、こういうふうな打ち出し方もあるのではないかという意味で考えております。

これだけをぽっと見ると、これで基山町の将来というのはなかなか見えないなというところはあるのですけれども、こういうやり方というのは今の時代のやり方かなと思います。自分らの時代からすると、とてもじゃない、何だこれはと思うときもあります。ただ、やはり今の若い人たちの感覚的なものも取り入れていかなければいけないのではないかと考えております。

森田会長：計画骨子のキャッチフレーズに近い姿かと思います。先ほどの協働のまちづくりの、この「アイ」をどう捉えて、どういうふうに実行していくかというのが計画、さらに次の実施というところになっていくかと思います。こういうキャッチフレーズが、キャッチフレーズとしてどうでしょうかということなのだと思います。どうでしょうか。

時間的には大体２時間ほどたとうとしていますが、お願いします。

)

原(憲)委員：構想するときに、この10年の人口の流れの中でソフト面に特化して、それも子ども子育ての部分に力を入れてきたという表現がありました。作るときにも、ゆりかごから墓場までとして、高齢者が集う町というよりも、子どもさんたちを生み育てやすい町というほうが、インパクトはやはりい

いと思うのですね。勤労協から選出してもらっていますけれども、そういう面から、なるべく私も勤労者の立場では発言を控えようという気持ちでいました。大きく子育てなり子どもに特化した部分の色を出すというのは、必要な部分ではないかなという気がしています。

なぜかというと、私の体験からすると、2013年は早く終わらんかなという思いがあったのは、長女が３人目の子どもを大阪で流しました。同じ年に長男の奥様が第１子を流しました。

こんな100人しか生まれないような町ですから、30人学級だったら４クラスしかならないですね。うちのたった20軒ほどの行政班の中で、今一番下の子が中学校１年生なのです。それから、十二、三年たって、うちの地域に初めて赤ちゃんが誕生するということで、地域の皆さん挙げて今喜んでいるところです。そういう意味では、少しそういう姿を、周知が足らなかったというところも含めるならば、色濃く子どもに対する支援、あえて基山に住んだら、子どもは育てやすいよ、産みやすいよというようなところを出していただけないかなという思いがあります。

構想は構想で、その部分でぜひお願いしたいのですけれども、実施になって、私、勤労者の立場から物を言わせていただければ、基山町は正規職員で役所の中に百二十数名の方が働いていると思うのです。議会を聞いていて、非正規の方がどれくらい働いていますか、登録されていますかというと、それを超えて130名を超える方が非正規で登録をされているのです。恐らく250名からの方が、何らかの形で基山町という所で働いて生活の糧を得ている。町内でいうなら、もう最たる労働市場は基山町役場だと思っているのです。

その中でどういう形になっているか。少子化に対して、行政がどういう形でしているかというと、法律に基づいて、出産、あるいは産前産後の休暇があります。育児休暇ということになれば、地方公務員法の育児休暇法ができたから、正規の皆さんには適用されるわけですけれども、非正規の方は半年、あるいはそれより短かったり、長くても１年、特別な職業で３年とか、そういう形で働かれている方が多いと思います。

民間でいうと、有期の方も2013年度から育児休業を取れるようになりましたけれども、これがまだ公務員の世界では実現できていないというのが事実だと思います。専門職の方は別にして、基山の住民の方もいらっしゃると思うのですけれども、妊娠出産を迎えて有期が切れるということになれば、基山町で働いている皆さんの中では、そこで退職という扱いがほとんどだろうと思うのです。

何が問題かというと、シングルマザーも含めて、雇用があったら育児休業の間に失業保険から育児休業がもらえるのです。しかし、雇用がなくなる、期限が満了して雇い止めになるということであれば、育児休業は職がないわけですから、休業ではなくて無職になったわけですから、給付を受けられないわけなのです。こういう制度が今、役所の中でもまかり通っている。少子

化に対してどうにかしないとけないという中、一大企業の基山町という行政が、基山町民も含めての育児、出産という仕事をしにくくしている制度が今の制度の中にあるということを、理解がなかなか広まっていませんので、勤労者の立場から申し上げます。

ぜひ、これは佐賀県でもそういう制度に手をかけて、仕事ができない人は問題外なのですけれども、なるべく長く勤めていただく。基山町の皆さんのために仕事ができる方でしたら、１年有期でも、ずっと長いこと仕事をしていただいて、もし、妊娠とかいう喜ばしいことになれば、休む間も仕事を継続させていただいて、いつかは帰ってきてくださいよと。その間の部分については、お金は払いませんけれども、雇用保険のほうから給付で60％出ますので、それでしのいでくださいとか。そういうのをいち早く打ち出して、基山町は子どものため、あるいは出産を迎えるような適齢期のために、働きやすい職場を、あるいは地域を目指しているんだというような発信にもなると思います。そういうことも実行段階では、他の市に先駆けて基山町がぜひ実施していただきたいと思っています。

そうでないと、非正規で働いている出産適齢期の方は、役所に勤めている間は出産に至るようなことは控えておこうというような状況が本当に今起こっています。そのところも委員の皆さんに紹介してご理解いただきたいのと、もっと基山の構想の中でも、子どもに特化した部分で色を出すということを求めさせていただいて、発言としたいと思います。

森田会長：ありがとうございます。今の件も計画段階に。もっと具体的に盛り込むべきかなと思います。もう最後になりますが、和栗先生、何か。

和栗委員：今日は構想なのですよね。計画段階についてはいろいろあるのですが、今日はまず様子を見させていただこうと思いました。ありがとうございます。

森田会長：分かりました。

和栗委員：ようやく来れて、今日初めてお話を伺いました。私は、構想、計画で、その３段階目という進め方の中で、今日、皆さんがご議論なさった構想の部分、構想はこういうものだと思います。まだ詳しくないところで、それぞれが意見を出し合ってということだと思うのですけれども、また、今後の実際の計画を詰める段階、その次を楽しみにしています。

大学で、かつ私は、実社会の企業さん、それこそ農家さんや漁師さんたちといろいろ学生たちが交流しながら学ぶプログラムを作っている立ち位置。それから、今、文科省が「地（知）の拠点整備事業」というのを進めていて、地域再生のために大学が果たし得る役割ということで、年間5,000万円ほどマックスで１大学に付ける事業というのをやっています。これは、ほかの省

庁の予算が減る中、文科省としては珍しくきちんとお金を取れている事業です。

皆さんがおっしゃっていた、学生たちの呼び込み観光とか、交流の部分でアイデアを出せると思いますし、実際、先ほど、お名前が見えないのですが、こちらの30代の消防団の男性という方がおっしゃっていた、若い人たちの地方回帰といいますか、地方志向というのは本当に高まっています。私の中央大学、早稲田大学での教え子たちも驚くくらいの確率で地方に行っています。弟も長野にＩターンといいますか、長野で子づくり、家族づくりということをしていますので、可能性はすごくあると思います。基山の名前が知られるようになればどうにでもできますし、計画を具体的に詰めていくことを楽しみにしています。ありがとうございます。

森田会長：それでは、予定していた時間となりましたが、たくさんご意見を頂きましたし、この構想案が全て満足できているかというと、まだまだ不足している部分もあるかと思います。この内容で、ご指摘いただいたところで修正が加えられる部分は修正を加えるという形で進めたいと思うのですけれども、この形で、一応構想としては取りまとめてよろしいかどうか、お諮りしたいと思います。いかがでしょうか。

内容修正につきましては、私に一任いただいて、事務局と相談して、皆様方のご意見で修正が必要な箇所等につきましては修正していきたいと思います。そして、町長へこの答申をする必要がございますので、答申という形で意向を示すということにしております。

計画に向けて参考になるというか、具体的に検討すべき事項というのはたくさん出していただきましたので、実のある計画に、今度は計画段階に進められるのではないかと思います。

構想としては一応よろしいでしょうか。

委員一同：異議なし。

森田会長：どうもありがとうございます。

それでは、その他としまして、事務局よりお願いいたします。

（３）その他

①　次回審議会の開催時期について

事 務 局：その他としてということもないですけれども、今日の会議の冒頭に、江渕委員さんのほうから、婚姻数の数字を引用されたところというのが質問であったのですけれど、あれについては、厚生労働省が毎月行っている人口動態調査に基づいた数字で表示させてもらっております。

そして、次回の審議会についてですけれども、次回審議していただく内容

としては、基本計画の内容等になってくると思うのですけれども、開催時期といたしまして、11月を開催予定とさせていただきたいと思っております。また日程の調整関係につきましては、久保山のほうからメールや郵送で日程調整をさせて、あらためて審議会の開催通知をさせていただきたいと思っております。

森田会長：　それでは、審議委員の皆さん、どうも長時間にわたりまして、ご審議、ご協力ありがとうございました。

これをもちまして、第３回基山町の総合計画審議会を終了したいと思います。どうもありがとうございました。

（閉会）

基山町総合計画審議会条例第１１条の規定により、ここに署名する。

平成26　年　9　月　9　日

基山町総合計画審議会　会長　森田昌嗣

委員　林　真矣

委員　田口英信